

まなびましよう

No.18

大桑村教育委員会・大桑村公民館(TEL**55-1020 FAX**55-2607)
大桑村ホームページ <http://www.vill.ookuwa.nagano.jp/>マスコット”マナビ”
デザイン：石ノ森章太郎

年頭に当たって

大桑村公民館長 早川 孝

年が改まり、皆様方におかれましては本年も輝ける年になりますことをお祈り申し上げます。そして、日頃の公民館活動への多くの皆様のご参加とご協力に感謝申し上げます。

公民館活動には、学校教育も含めての生涯学習の一環として誰でもが学び、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が求められています。

このような流れの中で、一昨年から大桑村でもスタートした信州型コミュニティスクール(オオクワガタCS)も、参加されている方々のそれまでの学びの成果を生かす一つの場として考えています。

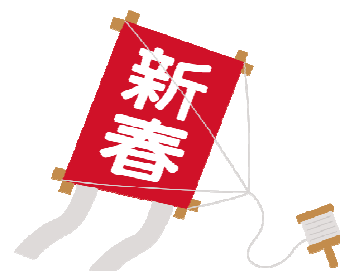
ここ20年間くらいでの、ライフスタイルの変化や少子高齢化と、特にICTと称される人同士の交わり方に関わる情報通信技術の異常な発達、人々の心の内面にまで影響を及ぼしているような気がしています。そして、親も含めた地域の大人と子供の関わりが希薄になってきているように思います。また、価値観の多様性と云われますが、今ほど子供から大人まで、内面的な部分で世代間に大きな差のある時代は、これまでに経験したことのない社会が出現し始めているように見えます。

そんな中、昨年2月に社会教育委員主催の「大桑の明日を語る会」の際に、避難所運営ゲーム(HUG)を取り上げ、県の講師の指導により、避難所で実際に起りそうな事例の想定問答がワークショップ形式で行われましたが、参加者の半数近い50名以上の児童、生徒や学生の参加がありました。木曾地方の地形的特徴から、特に地震や洪水の時には、多くの孤立する少子高齢化集落が想定されますので、状況によっては今回参加されたような小、中、高生が中心となった避難所の運営が実際に強いられる可能性があり、今回参加された学生さん達も、無意識のうちにそんなことを感じ、それが、今回のような大勢の参加の理由の一つになったのかと思いました。

さらに、彼らが、臆することなく堂々と大人相手に自分の考えを話しているのを見ていますと、家族や先生だけではなく、地域の大人達との会話の機会を望んで参加しているんだなとも思いました。更に、中学生は生徒会活動として地域への貢献を模索し始めています。この延長線上に、大人と子供が学校を介して交わり、混然一体となってお互いの支え合い、さらには地域への支え合いが見えてくるような気がしました。

今年は公民館に対する新しい施策が文科省や県教育委員会から提唱されると思いますが、これまでの地道な分館活動の継続と共に、さらに新しい生涯学習の場としての公民館活動を皆様と一緒に考えながら進めていこうと思っています。

色々なかたちでの皆様のご協力、ご参加を宜しく願い申し上げます。



裏面もご覧ください

ふるさと講座 ～伝統食を学ぶ～

とち餅づくりを教わろう 参加者募集!

2月8日(木) 10時～13時

1/18
受付開始

須原地区館(調理室)

参加費: 500円(材料代)

試食会も
あります!

講師: 野知里すな子さん、勝川益子さん

定員: 15人(先着順)



【申し込み】 大桑村教育委員会 ☎ * * 55-1020



大桑村の明日を語る集い

参加者
募集!

テーマ 大桑村のここが好き!

～伝えたい! 残したい! 自慢したい!～

開催日時: 2月25日(日) 9時30分～

会場: 野尻地区館

参加費: 600円(昼食代) ※高校生以下無料

◇地域の魅力再発見ミニ演会

* 奥田工業株式会社

* 大桑中学校 70年のあゆみ

【申し込み】 大桑村教育委員会

☎ * * 55-1020

* 駐車場に限りがあります。当日はできる限り送迎バスをご利用ください。

昼食は
木曾牛カレー



小学生・中学生
高校生の参加
大歓迎!!

託児を希望
される場合は、
ご相談ください

